（様式２）

令和５年度　県立高校指定校事業（令和４年度指定）単年度計画書

学 校 名	横浜氷取沢高等学校（全・定・通）	校 長 名	坪内　幸子
指 定 名	グローバル教育研究推進校	年　　度	令和４年度～６年度
研究主題	本校のグラデュエーション・ポリシーである「グローバル人材に求められる資質・能力の育成」に向けて、英語によるコミュニケーション能力の向上と国際理解教育を推進するとともに、すべての教科において、それぞれの教科特性を踏まえ、教科横断的に取り組む指導と評価の研究		
本年度の研究内容	**(1) 本年度の目標** 育成すべき「グローバル人材に求められる資質・能力」について全職員で共通認識をもち、「研究主題」「３年間の目標と研究内容」等の共通理解をもつ。 １　全教科における教科横断的な取組 ・今年度の校内授業研究テーマを設定し、研究テーマを踏まえた授業改善に取組む。 ２　英語教育における取組 ・４技能５領域における各領域別の効果的な言語活動を研究し授業改善を行う。 ・校内スピーチコンテスト、プレゼンテーションコンテストを計画的に実施する。 ３　国際理解教育の取組 ・「総合的な探究の時間」における系統的な指導計画について課題の整理を行う。 ・姉妹校等の交流については、社会的な状況を踏まえた上で、直接的な交流を実施し、さらにオンラインの交流も引き続き実施する。 ４　外部機関との連携 ・グローバル教育に係る講演会を実施する。 ・大学等との連携や交流を実施する。 **(2) 目標実現のための具体的な手立て** １　全教科における教科横断的な取組 ・令和５年度の校内授業研究テーマを「他者とのやりとりを通じて、多様な考え方を理解し、新たな考えを発信できる指導と評価の研究」とし、研究テーマを踏まえた授業改善と公開授業研究を行う。 ２　英語教育における取組 ・４技能５領域における各領域別の言語活動について教科で情報共有を行い、実践する。 ・校内スピーチコンテスト、プレゼンテーションコンテストについては、10 月の実施に向け、前期から英語の授業の中で計画的な指導を行う。 ３　国際理解教育の取組 ・各学年の「総合的な探究の時間」における担当者において、これまでの指導計画についての課題を共有し、課題解決に向けた取組を行う。 ・姉妹校等の交流については、韓国・オーストラリアにニュージーランドの高校も加え、直接交流とオンライン交流を交えた交流を実施する。 ・国立教育政策研究所の「教育課程実践検証協力校事業」を通じて、国際理解教育の実践と授業改善を行う。 ・ICT を活用した学習コンテンツを取り入れた英語教育の実践研究を行う。 ４　外部機関との連携 ・グローバル教育に係る講演会において外部人材を活用する。 ・大学等との交流において留学生との交流を図る。 ５　成果の普及と啓発 ・令和５年度の取組結果を本校 HP を使い、外部へ発信する。 **(3) 成果の検証方法及び取組指標** **◆検証方法** １　「校内授業研究テーマ」に基づき、全教科でそれぞれの教科特性を踏まえた指導と評価の研究を行うことができたか。 ２　「魅力と特色づくりアンケート」のうち、「主体的な学習活動を通じて、思考力・判断力・表現等を高めることができたと思う高校生の割合」（「満足している」と「どちらかと言えば満足している」の合計）の割合の増加。 ３　「生徒による授業評価」のうち、次の質問項目において、肯定的な回答の割合がすべての		

教科で向上したか。

・「単元（内容のまとまり）の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。」

・「他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた。」

４　・CEFR のＡ２レベル以上相当を達成する生徒の割合の増加。

・実用英語技能検定の受検者数や合格者数の増加。

◆取組指標

授業評価アンケート

単元の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。			
回答	令和４年度（実績）	令和５年度（目標）	令和６年度
４．かなり当てはまる	42.2%	%	%
３．ほぼ当てはまる	44.9%	90.0%	%
２．あまりあてはまらない	10.2%	%	%
１．ほとんどあてはまらない	2.7%	10.0%	%

他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた。			
回答	令和４年度（実績）	令和５年度（目標）	令和６年度
４．かなり当てはまる	40.3%	%	%
３．ほぼ当てはまる	46.7%	90.0%	%
２．あまりあてはまらない	10.2%	%	%
１．ほとんどあてはまらない	2.8%	10.0%	%

魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート

質問項目 A-4： 高校生活において、課題の発見と解決に向けて主体的に考えたり、発表しあうなどの協働的な学習活動を行うことによって、中学生の時よりも思考力・判断力・表現力を高めることができたと思いますか。			
回答	令和４年度（実績）	令和５年度（目標）	令和６年度
４．そう思う	39.3%	%	%
３．どちらかといえばそう思う	45.4%	89.0%	%
２．どちらかといえば満足していない	9.8%	%	%
１．ほとんどあてはまらない	5.5%	11.0%	%

CEFR のＡ２レベル以上相当を達成する生徒の割合

【１、２学年の生徒全員が GTEC アセスメント版を受験している】

・令和４年度（実績）　１学年 58%　２学年 65%

・令和５年度（目標）　１学年 63%　２学年 70%

実用英語技能検定の受検者数や合格者数

【令和４年度実績】

・準２級　受験者数 243 人 合格者数 109 人　合格率 45%

・２級　　受験者数 411 人 合格者数 66 人　合格率 16%

【令和５年度目標】（合格率）

・準２級　合格率 50%　　・２級　合格率 20%

その他 特記事項	特になし